

ごあいさつ

本校が平成 20 年度より取り組んできた「一人一人のニーズを読み取り育てる取り組み」を主題とする研究も、今年度が最終年度となりました。本研究を開始した前年度の平成 19 年 4 月には、特別支援教育が法的に位置付けられた改正学校教育法が施行され、それに伴って、「特別支援教育は、障害のある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するために、子ども一人一人のニーズに応じた教育的支援を行うものである」という趣旨の理念が示されました。この理念に基づく教育を実践していくためにはどのような視点や支援の仕方が有効であるのか、本校の研究はこの問題に正面から取り組んだ実践研究といえます。

子ども自身の主体的な思いや要求を尊重することからはじまった本研究では、より良い教育的支援のあり方を模索するために ICF（国際生活機能分類）の考え方やモデルの積極的な導入を試みました。その理由は、障害にのみ着目するのではなく、生活機能というプラスの面から多面的に人間をとらえようとする ICF の理念が、子どもの自己実現をめざすための支援の在り方をさぐるという本研究の最終目標と合致すると考えたからです。ICF という柱を研究に組み込んだことにより、子どもに対する見方や教育的支援についての考え方が整理でき、研究を進めていく上での方向性をより明確にすることができました。また、ICF 自身もつ普遍性ゆえに、今回の研究で得られた成果は、より多くのさまざまなケースの教育実践においても大いに参考になるであろうと期待されます。

今回の研究を通して、本校では多くの貴重な教育的財産を得ることができました。一方で、研究を進めることによって新たな課題も見えてきました。また、我々が気づかなかった問題点もあるかもしれません。本研究紀要をご高覧いただき、皆様方の忌憚のないご意見やご示唆を賜れば幸いです。

この 3 年間、金沢大学学校教育学類の先生方のご協力を得ながら、研究を進めてまいりました。特に ICF の導入と活用に関しては、専門家である先生方のお話やご助言が大変役に立ちました。大学との連携という点でも、附属学校としての特性を活かすことのできた研究であったと思います。

最後になりましたが、本校の教育研究会にご参加いただきました皆様、また、本研究を遂行するにあたり多くのご指導とご助言をいただきました金沢大学の先生方に、心より感謝申し上げます。

2011 年 2 月

金沢大学附属特別支援学校長 酒寄淳史